

令和7年度

浜松市立和田小学校
第5回 学校運営協議会

令和8年2月17日(火)
午後1時40分～午後3時40分
視聴覚室にて

〈本日の日程〉

13:40～14:10 授業参観 ※ 御自由に御参観ください。

14:20～15:40 学校運営協議会

学校運営協議会 次第

※ 開催要件確認(委員の過半数の出席が必要です。)

- 1 会長挨拶
- 2 校長挨拶
- 3 議長の選出
- 4 前回会議録確認
- 5 熟議
 - (1) 授業についての意見交換 - 10分 -
 - (2) 学校評価(追加分) - 5分 -
 - (3) 浜松市立和田小学校いじめ基本方針について - 5分 -
 - (4) 令和8年度学校経営方針について(承認) - 20分 -
 - (5) 学校運営協議会 自己評価 - 20分 -
- 6 その他
 - ・夢育やらまいか事業報告(CS 加算分)
 - ・学習ボランティア活動状況
 - ・情報交換 等
- 7 連絡
 - 令和8年度 年間行事計画
 - 令和8年度 第1回運営協議会の予定
 - ・第1回 5月8日(金)

令和7年度 第4回学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年1月15日（水）14時15分から16時00分まで
- 2 開催場所 和田小学校 視聴覚室
- 3 出席委員 安藤 小ゆり、太田 優子、神谷みち子、齋藤 拓雄、
鈴木 三雄、早川 智美、林 實
- 4 欠席委員 鈴木 剛司
- 5 オブザーバー 宮地 俊晴（天竜協働センター）
- 6 学 校 横井 靖二（校長）、米山 由紀子（教頭）、中西 伸（主幹教諭）
一ノ瀬 隆史（教諭）、瀧口 詢也（教諭）、戸澤 智之（教諭）
小粥 万祐子（CSディレクター）
- 7 傍 聴 者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 小粥 万祐子
- 9 議長の選出

司会から、議長の選出について委員に意見を求めたところ、齋藤委員を推挙する旨の発言があり、全員意義なくこれを承認した。

10 前回会議録確認

11 協議事項

(1) 授業参観をして

(2) 令和7年度の学校運営について～2学期教育課程アンケート結果をもとに～

- ・教育課程アンケート結果・考察・改善策
- ・改善策について話し合い

12 会議記録

司会の米山教頭より、委員総数8人のうち7人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

(1) 授業についての意見交換

会議前に行った授業参観をもとに、子供たちのよいところや課題について意見交換をした。

- ・6年生の授業で卒業文集を入力していた。タブレットで横書き入力していたので、原稿用紙のように縦書きで書くことは減っているのかな、と感じた。授業の形態の変化を感じた。

（安藤委員・太田委員・林委員）

- ・4年生の授業では、辞書を引く練習をしていた。タブレット授業が増えた近年だが、それに加え、昔ながらの手法も教えてくださり有難い。

（安藤委員・太田委員）

- ・1年生は4月のころと比べ授業に集中していて成長を感じた。

（太田委員）

- ・1年生の掲示物の絵画が大きく色鮮やかで迫力がありすばらしい。この感性が高学年へと繋がっていくのかな、と感じた。

（太田委員・神谷委員）

- ・ 4年生の社会では、見やすい資料を先生がたくさん用意しており、子供たちがとても集中して授業を受けていた。 (太田委員)
- ・ 4年生の図工の彫刻刀を使った授業では、先生が1人1人順番に丁寧に見て回っていたが、それ以外でも困っている子がいると子供たち同士で教えてあげていて感心した。 (太田委員)
- ・ 5年生はグループごとにSDGsの発表をしていた。目標に向けて取り組んでいて、とても素晴らしい授業だった。 (太田委員・神谷委員・齋藤委員・鈴木委員)
- ・ 書道がみんな上手。先生の指導に秘訣があるのか。 (太田委員・神谷委員・早川委員・林委員)
- ・ 学校全体が落ち着いていると感じた。 (神谷委員)
- ・ 6年生でポータルフォリオを使用した授業をしていて感心した。 (齋藤委員)
- ・ 元気よく手を上げて発表する様子がよく見られよかった。発表した子への拍手もあり、お互いに認め合っていてうれしい気持ちになった。 (鈴木委員)
- ・ 子供たちは、先生の言葉から学ぶ事が大きい。体験談を含めた話は、子供たちの学びであると感じた。 (早川委員)

(2) 令和7年度の学校運営について～2学期教育課程アンケート結果をもとに～

各部担当教諭から別紙資料（「令和7年度学校評価及び学校関係者評価」）に基づいて学校評価及び学校関係者評価について説明があり、委員から以下の発言があった。

- ・ AIの活用は検討しているか？ (林委員)
⇒浜松市は教員の使用が認められたところで、児童はまだ使っていない。 (校長)
- ・ 新聞で拝見したところ他校で、PLCという手法を用いて教員間のコミュニケーションを深める取り組みをしているということだった。各学校で導入を検討しているか (林委員)
⇒本校では取り組んでいない。ただ、教員の働き方改革については、今年度から小学校の部活動がなくなったことから、今まで部活動をしていた時間を有効に使おうと考えている。そして、課題はあるものの、できることから取り組んでいる。 (校長)
- ・ 子供たちが、自然に挨拶やお手伝いしましょうかと声をかけてくれたりして、校内に保護者や地域の方がボランティアで来る事に慣れてきた、と感じる。 (神谷委員)
- ・ 家庭学習の手引きは、学年別に和田小独自に作成しているのか。 (林委員)
⇒本校独自のものである。学年別に作成し年度初めに配布している。 (一ノ瀬教諭)
- ・ 食育指導で朝活動に時間に栄養教諭が各学級を訪問しているのは素晴らしいと感じた。 (齋藤委員)
⇒栄養教諭が学年に応じた内容を考え、指導している。また、給食の時間には、各教室を回り、子どもたちが食べている様子を見ている。 (戸澤教諭)

(3) 令和8年度教育目標について

校長から令和8年度和田小学校経営構想について説明があった。

◎学校支援活動について

- ・神谷委員より令和7年度2学期までのボランティア実施状況の報告があった。

◎諸連絡

- ・次回の学校運営協議会は令和8年2月17日（火）に開催するとの報告があった。

以上

令和7年度 学校運営協議会自己評価

浜松市立和田小学校運営協議会

〈本年度の目標〉

児童の安全や居場所づくり、地域の魅力を生かした授業づくりなど、学校の課題に新たな提案ができるよう、地域の各組織や学校職員との連携をさらに深める。

- 協議会・熟議内容の周知（地域・保護者）
- 学校職員と話し合いの場の設定
- 地域人材の掘り起こし

〈評価項目1〉学校の基本方針について熟議することができたか。

ア よくできた：4 イ できた：2 ウ あまりできなかった：1 エ できなかった：0

【理由】

- ・ 学校グランドデザインが1月の運営協議会で出され、2月の協議会で基本方針及び経営構想について校長、担当の教員方から分かりやすい説明があったので理解が深まり、自分の考えを出すことができた。それが熟議につながったと思う。
- ・ 協議会事前に学校評価の結果（10ページ）をもらい熟読して協議会に参加できたので、基本方針に対しての児童の実態や保護者の考え方等についての熟議ができたように思う。
- ・ 学校運営基本方針について、学校からの説明も分かりやすく、学校－委員の間でよく議論ができたと思う。
- ・ 資料や説明が分かりやすく、学校運営の基本方針について理解を深めながら意見交換ができました。
- ・ 校長先生だけでなく、主幹、教頭先生、各担当の先生から分かりやすい説明があり、質問をしても丁寧に熱心に回答をいただき、学校側の誠意がとても良く伝わってきた。
- ・ 学校職員とのグループ協議で、「特に培っていきたい資質、能力」について熟議し、先生たちの子供たちへの思いや、先生方が子供たちに寄り添い日々取り組んでくださっていることが分かり、とても貴重な時間だった。
- ・ 毎回の授業参観を通して、協議会全体が校長先生の意図を理解しました。
- ・ 学校側から示された「グランドデザイン」は、上位計画との整合を保ちつつ、且つ体系的でその中に和田小の独自性も含まれ適切と判断されたと考える。但し、学校教育は教育用語が多く使われているが、委員各々が“分からない用語”を遠慮なく質問したかは疑問。協議録からも活発な発言がされた形跡はない。新たな委員会の発足で新任の委員が多くなったこともあり、質問を躊躇ったとも考えられる。
- ・ 「熟議することができたか」の判別は、当事者の委員にとっては、分かりにくいのが実情。留意したいのは、熟議は必要条件ではあるが、あくまで手段であり目的ではないことを常に念頭に置く必要がある。ともすれば熟議をもって、運営委員としての責務を全うしたと思ってしまうがちのようで、制度初期の目的に繋がるアクションを忘れないようにすべきことを過去の「フォーラム」で警鐘を鳴らしている。

〈評価項目2〉承認した学校運営の基本方針に沿った、教育活動の充実につながる学校支援活動などについて熟議を進めることができたか。

ア よくできた:3 イ できた:3 ウ あまりできなかった:1 エ できなかった:0

【理由】

- ・ 和田小学校のグランドデザインを通して、学校の支援活動の方向性など、学校・地域・家庭の果たす役割などが確認できた。
- ・ 各委員が、資料等を熟読してきて、学校内だけの問題だけでなく、社会全体の流れを感じながら、広い視野からの意見交換ができたと思う。
- ・ 学校運営の方針を踏まえ、地域や家庭との連携を含めた学校支援活動について有意義な意見交換ができたと感じています。
- ・ 教育活動につながる議論としては、先生方と直接テーマに沿った話し合いができたので、よかったと思う。
- ・ 教員全員参加の会で子供の良さと課題、主体性を育むための手立ての2点についてのグループ協議は、委員も教員もそれぞれの立場で率直な話し合いができた。浮き彫りになった子供の姿に対しても学校・家庭・地域がどのような形で関わっていけばよいかと考える場にもなった。家庭教育も大事であり地域でサポートできることはないかと熟議は行われたが、具体的な方法までにはいかなかった。
- ・ 「人とかがわる力」「心の教育」として、多くの地域の方、ボランティアさんと関わることができ、各学年で様々な活動を通して、有意義な活動ができたと思います。今後、どのような活動をしていくのか、または、必要かを熟議できたらよかったかなと思いました。
- ・ 学校支援コーディネーターが中心になって学校支援活動を企画立案したので、運営協議会としてどのような学校支援活動をすべきか、という議論は欠けたと思う。また、協議会の場で、学校・家庭・地域がそれぞれ実行すべきこと、役割分担を明確にすべく議論はしなかった。しかし学校支援活動については、「コミスクだより」などで様々な単元のボランティアを募り、多くの人の参加の下に支援活動が実施できたことは、大きな成果だと思う。
- ・ 個人的には「新1年生・集団下校見守り」、「2年生生活科・町たんけん」、「3年生・めいけん学習“和田の町すてき”」に関わり、現役の地域安全推進員を始め、元推進員等にも呼び掛け、大勢の協力が得られたので、成果の一つであったと思う。特に、「新1年生・集団下校見守り」時には、児童の保護者が自宅近くに迎えに来ており、私達に感謝の言葉をいただき、やり甲斐を感じると共に「和田小コミュニティ・スクール」表示のビブスを着用しての従事であったので、情報発信の一助にもなったと思う。

〈評価項目3〉協議会での協議結果について、十分な情報発信を行ったか。

ア 充分に行った：4 イ 行った：3 ウ あまり行わなかった：0
エ 行わなかった：0

【理由】

- ・ さくら連絡網やブログ、コミスク便りなどで、都度情報が発信されていると思います。
- ・ CSだより等を通じて、協議会での協議内容や結果が分かりやすく発信されていました。
- ・ 「コミスクだより」は、紙面の体裁が写真、カット等を用いて、より見やすく、且つ親しみやすいものとなったと思う。最終の「コミスクだより」に1年間の学校支援活動の総括を載せれば、よりよい情報発信になると思う。
- ・ 学校だよりやブログ、コミスクだよりなどで分かりやすく（写真等）発信しているので、少しずつ浸透はしていると思うが、まだ十分とはいえない。
- ・ 協議結果の情報発信については、「和田小コミスクだより」発行による住民への回覧、和田小公式サイト「コミュニティ・スクール」による協議録掲載により行った。但し、「コミスクだより」には協議録を掲載しなかったため「十分な情報発信」と言えたか疑問が残る。ただ、紙面の容量も限られているので、編集の仕方、発行回数について協議会で議論俎上にのせるのもよいと思う。また、「公式サイト」掲載の協議録は発言要旨なので、発言者の意図が正確に伝わっているか懸念される。
- ・ 会議録を通して、授業についての意見交換が行われ、協議会としての意見が、授業その他生活態度にも生かされたと考えます。
- ・ それぞれの委員の方が、情報を伝え合い、自治会の方々に御協力をいただくことができたり、改善することができたりしたと思います。
- ・ 本年度、単発的なボランティアだけでなく、総合的な学習の時間に単元全体に地域が関わる活動が実施できた。協議会委員からの人材情報もあり、30人の方と関わり充実した学習が行われた。この学校支援の活動が地域への情報発信にもなったと思う。
- ・ 協議会での話を参考に、民生委員の定例会でお話させていただいた。また、ボランティアに参加していただけるよう協力を呼び掛けた。ホームページや回覧板など情報発信は充分であったと思う。
- ・ 協議結果は、議事録として配布され、委員の間でも情報共有できたと思う。
- ・ 情報発信した効果を評価するのは、尺度がなく難しさがある。

〈評価項目4〉今年度の評価を踏まえた来年度の目標

- ・ めいけん学習など、地域を巻き込んだ活動を充実させる。
- ・ 基本方針にある自主性、主体性が身に付くよう、地域の方々と保護者様、学校職員と連携をしながら、子供たちが自信をもって何事にも乗り越えられるように手助けしていきたいです。
- ・ 児童の豊かな学びに結びつく地域人材を活かした活動や保護者や地域の方によるボランティア活動をさらに進める。そのために地域の組織やPTA、学校職員との連携を今以上に深める。
 - 協議会・熟議内容の周知（地域・保護者）
 - 学校の課題に対する提案
 - 学校職員との話し合いの場を設定
- ・ 本年度の目標も充分達成できていると思うが、来年度も引き続き同じ目標で、より深い協議をしていければいいと思います。
- ・ 協議会における意見交換をより活性化させ、学校運営に実効性のある提案につなげていくことを目標とする。
- ・ 学校全体が「和」をもってお互いに尊重し合えるような場となればいいと思います。
- ・ 毎年度の活動や実績が（特に学校支援活動毎に、関わった人の数やマンパワーの詳細が暦年で分かる）記録として残り、この先、コミュニティ・スクールに携わる人達が、過去の活動の振り返りをすることができる取り組みをするのがよいと思う。また、学校支援活動の教科・領域、内容をどのようなものにするのが良いか、及び、コミュニティ・スクール達成度の尺度を検討し、目標を設定することを協議の俎上にのせるのがよいと思う。

令和7年度 和田小ボランティア実施状況

回数	学年	月	教科・領域等	内 容	地域の方	保護者の方
1	1年	4月	集団下校 (7日間)	1年生だけの町別6方向での集団 下校での引率補助	18人 延べ78人	0人
2	1年	4月	給食の時間	給食の配膳・片付けの手伝い	15人 延べ39人	0人
3	5年	5月	家庭科	玉結び、玉留め、並み縫い、返し 縫い、ボタン付けなどの補助	7人 延べ37人	7人 延べ18人
4	1年	6月	生活科	安間川公園への引率補助	4人	9人
5	3年	6月	めいけん学習	和田の町すてき発見	4人	0人
6	3年	6月	めいけん学習	町探検（増福寺見学）	6人	0人
7	1年	9月	生活科	朝顔のリース作りの補助	10人	8人
8	6年	10月	家庭科	ミシンでのトートバッグ作りの 補助	7人 延べ16人	5人 延べ16人
9	2年	10月	生活科	町探検（グループごと）の引率 補助	8人	5人
10	1年	10月	生活科	安間川公園への引率補助	4人	9人
11	5年	10月	家庭科	ミシンでのランチョンマット作り への補助	9人 延べ37人	6人 延べ28人
12	3年	12月	国語科	毛筆での書き初め 用具の準備や片付けなどの支援	7人 延べ12人	4人 延べ6人
13	2年	12月	生活科	おでん作りの支援	6人	3人
14	3年	1月	めいけん学習	和田の町 すてき発見！	17人	1人
15	6年	1月	めいけん学習	自分を見つめて	4人	0人
16	1年	2月	生活科	昔あそび	13人	1人
17	6年	2月	図工科	絵手紙の指導、支援	2人	0人
					延べ6人	
ボランティア実施回数合計					141人	58人
					延べ223人	延べ68人